

名野 隆夫 氏

三洋電機(株) セミコンダクターカンパニー 技術開発センター部長



大学でどれだけの能力を身に付けるかは本人の意思で決まるもので、基本的に大学に依存するものではありません。

大学は自ら学ぶ場であり人はいずれ独学をしなければならぬ。学生の皆さんは学ぶことに対して大学に

頼り過ぎてはいませんか。

俺は(私は)この大学だから、この研究室だから、この教授だからダメだったというのは言い訳。言い訳はいくらでもでき、それを言っても己の人生は変わりません。一度大学でどのように学ぶのかを考えてみませんか。

以下に私が社内で専任講師をしている“アナログ大学院”の例を示します。この大学院は就業時間内に週1～2回(1回が1時間半)、6～8ヶ月の講義をしており、企業内で給料をもらいながら学ぶのですから行動指針は厳しく実践しています。

— 大学でいかに学ぶか —

これをそのまま大学に持ち込むことはできないかも知れませんが参考にしてください。

<理念>

一流の個人、集団を目指す

<行動指針>

- ①常に一流を意識しながら教えそして学ぶ
- ②講師は生徒以上に学び、高度な技術を分かり易く講義する
- ③講師は生徒が学ぶことに感動し、成長の喜びを感じる講義をする
- ④事象の真理を知り、その上で技法を学ぶ
- ⑤生徒は講師を超えるつもりで学ぶ
- ⑥感謝の心を持って学ぶ
- ⑦常に真剣勝負で学ぶ(イネムリをした者はその場で退学)
- ⑧学んだことはその場で習得、後に持ち越さない
- ⑨受身でなく自ら考えながら学ぶ
- ⑩卒業後独力で継続して学ぶ